

津軽「うるし」



ワークショップ

つがるぬり
津軽塗の一部工程「研ぎ出し」体験と展示即売会

と き: 8月1日(土)~4日(火) 10:00~15:00

ところ: 弘前公園北の郭 武徳殿休憩所内

「津軽塗」

青森県弘前(ひろさき)市を中心に生産される変塗りの漆器。江戸前期の寛文(かんぶん)年間(1661～73)に津軽藩が若狭(わかさ)国(福井県)の塗師(ぬし)池田源兵衛を招き抱えたことから始まり、その後を継いだ子の源太郎がさらにその基礎を固めた。

基本となる認定技法の上(うわ)塗りは、古技法とよばれる唐塗(からぬり)のほか、七々子(ななこ)塗、紋紗(もんしゃ)塗、錦(にしき)塗の四技法が用いられており、いずれも凹凸をつけた下地に彩(いろ)漆を塗り重ね、地元産の大清水砥石で研ぎ出して文様を表すものである。

明治6年(1873年)に開催された、ウィーン万国博覧会には、青森県が「津軽塗」の名前で漆器を出展し、賞を受けている。「津軽塗」という名前が一般的となるのは、ここからである。以後、現在に至るまで、津軽塗は青森県を代表する伝統工芸品としての地位を保ち、更なる発展の道筋を辿っている。

「完成まで」

津軽塗は、美しく独特の模様を表現するために、何十回もの工程を数ヶ月の期間をかけて作成されます。塗り重ねる数が多いもので50回以上、期間にすると半年ほどの時間を要することもあります。

主な工程として、下地を作る工程、模様を描く工程、上塗りと呼ばれる仕上げの工程の3つがあります。

研ぎ出し体験料 1, 500円

(詳しくは体験受付けの際にお問い合わせください)

※お客様が体験した作品は、そのあと津軽塗職人が艶出しのため丁寧に磨き上げます。

完成までに1ヶ月半～2ヶ月ほどお時間を頂いております。
完成した商品については後日発送となりますので、予めご了承ください。